



岐阜の和牛

手塩にかけ育てた仔牛を市場へ大きく育て！飛騨牛、候補生

ののむら牧場(岐阜市石谷) 野々村 智仁さん

肥沃な大地と清らかな水、澄んだ空気に育まれた岐阜の農産物と生産者を紹介するシリーズの23回目は繁殖和牛農家の野々村智仁さんです。一般に肉用牛農家は、母牛に仔牛を産ませて出荷する繁殖農家と、市場等で仔牛を購入して飼育し出荷する肥育農家、そして繁殖から肥育まで一貫して行う農家があります。今回、登場いただく野々村さんは就農5年目の繁殖農家。牛舎が昨年4月に完成したばかりです。日本を代表するブランド牛としてその名を轟かせる飛騨牛。その基となる健康な仔牛を育てようという挑戦を始めた野々村さんに、繁殖農家としての意気込みとこだわりをうかがいました。

畜産業を営む三代目 仔牛を出荷する繁殖農家

野々村さんが営む「ののむら牧場」は飛騨牛として育てられる仔牛を繁殖させるため、黒毛和種の雌50頭と生まれたばかりの仔牛1頭を飼養しています。

「ここにいるのは全て繁殖用の雌牛。うちの仕事は雌牛に種付けをするところから始まります。生まれた仔牛を出荷するのは、8か月を過ぎたくらいからですね」と、欄越しに顔を並べる雌牛たちを背に話す野々村さん。飼養した場所や期間などいくつかの条件を満たすことで飛騨牛として認定されるため、「ののむら牧場」で生まれた仔牛は言わば「エリート候補生」です。

野々村さんの祖父は酪農を営み、父は肥育農家。3代目として子どもの頃から「いつかは継ぐのかな」と思いつつもサラリーマンになり、本格的に就農を決意したのは24歳の頃でした。「結婚をきっかけに就農を決意しました。繁殖和牛は父の夢でもありましたし、やるなら今しか無いと思いましたが、ノウハウは知り合いの繁殖和牛農家で学ばせてもらい、昨年4月に牛舎が完成。「まだまだ駆け出しです」との言葉には希望があふれています。牛舎と同じ敷地内には仔牛用の牛舎も完成したばかり。春頃から初めての出産ラッシュを迎え、一家総出で仔牛たちへの人工哺育が始まります。

種付けには「観察」が大事 牧草を自給し、飼料も工夫

ののむら牧場では地域の協力を得て休耕田を借り、牛が食べる牧草を自ら作っています。それは「牛のために良い草を作って腸内環境を良くしたい」との思いから、この牧草といろいろな種類の飼料を栄養が偏らないよう体調に合わせて与えます。

「仔牛は人間の赤ちゃんと同じですぐ体調を崩してしまいます。寒さにも弱いで冬には特に繊細な管理が必要です」。ミルクはちゃんと飲むか、順調に大きくなっているか。手塩にかけて育てます。

良い仔牛を産んでもらうためにはまず牛を見ること。毎日観察することが大切だと考える野々村さん。「母牛は体のつくりを主に見えています。



霜降りと豊潤な味わいが特長の飛騨牛

本広告に関するご意見や感想をお聞かせください。抽選で「飛騨牛焼肉 武蔵 飛騨牛すじカレー」を4個入りセットでプレゼント!

抽選で10名様をプレゼント

「地元の農家・業者様と山県の美味しさを伝えていく」ことを掲げるJAぎふ山県ばすけっとと、地元で長年愛される飛騨牛焼肉武蔵がコラボレート。飛騨牛のすじがゴロっと入った少しピリッとしたパインーなカレーです。

①郵便番号・住所②氏名③電話番号
④紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。
【はがき】〒500-8875(住所不要) 中日新聞 岐阜支社 広告部 「ぎふの農業人」係

1月21日(金) 必着

※個人情報保護法に基づき、当選者の発表は、賞品の発送(翌月予定)をもってさせていただきます。

太りすぎず痩せず。そして一番肝心なのは発情を見極めること。種が付かないことは仕事になりません。繁殖農家の基本でもあります。年間の売上頭数に直結するためにも大事なことです。人工授精士の資格を取得した後も、獣医師に教えてもらいながら種付けの技術を習得してきました。

競りは繁殖農家の通知表 評価される仔牛を育てたい

牛を良い状態で飼育するには牛舎の環境を整えることも重要です。「まずはサシバエ(刺刺)。牛にストレスがかかるので、対策のために牛舎は全てネットです。対策として、牛は暑さにも弱いので大型扇風機を換気も兼ねて数カ所に設置しました。

「産まれてくる仔牛は30〜40キロあるので、母牛はしっかりと体型の牛でないといけません。競りで牛が何百頭と並んでいる中、どの牛を選べば良いのかはまだまだ勉強しています。でも今はそれが楽しいです。種付けも技術がいるので今でも苦戦していますが、日々やっていると自分でも上達しているのを感じています。



建設中の「ののむら牧場」新牛舎



生まれたばかりの仔牛と母牛が暮らす牛舎

農の現場から / JAぎふ北部営農経済センター 畜産担当 大野歩さん

JAぎふでは地域ごとの特色ある農業の維持発展に務め、農家の方々の所得向上に取り組んでいます。行政、関係機関と連携して新たな担い手の確保や後継者育成を行いながら、管内の和牛農家に対しても各種補助事業・助成金等の活用提案を行っています。

コロナ禍において肉用牛農家は大きな打撃を受けました。このようなときこそ対話を続けて現場のニーズを取り込み支援に繋がりたい。農家の方々にとって縁の下のような存在でありたいと心掛けています。



耕そう、大地と地域の未来。

岐阜県の豊かな自然の中で、愛情を持って生まれる飛騨牛。安全・安心にこだわった本物の味を食卓に届けたい。

JAは地域の未来を見守ります。

